

令和6年度一般財団法人泉佐野市文化振興財団事業計画

令和6年度は、文化会館ならびに生涯学習センター・佐野・長南・日根野公民館の指定管理者公募にて5年間の選定を受けた3年目の年となります。

財団は公募時に掲げた理念や方針・目標を具現化して参るため、これまでの「経験と実績」を源泉としながらも、急速に変わりゆく社会情勢に対し「変化への対応力と創意工夫」をもって、引き続き運営して参ります。

そして、引き続き「利用者ニーズを反映した施設運営」、「安全・安心で快適な施設管理」「市民参加と多様なジャンルでの文化振興」の三つを基本方針としながらも、新しいスマートライフの中での事業運営を推し進めて参ります。

また、2025年3月から開催される大阪・関西万博に併せて、より一層の地域の文化芸術の発信、シビックプライドの熟成の機会や環境づくりに努めて参ります。

1. 貸館業務

- ① 感染症等予防の衛生活動を一定の内容で継続し、安心して利用頂ける施設内環境を提供して参ります。
- ② コロナ禍で減少した施設利用機会の回復に向け、各企業や団体・教室等に当施設をアピールし、利用促進に繋げて参ります。
- ③ 本年から運用を始めました窓口でのキャッシュレス化に加え、インターネット上での施設利用料の決済システムを導入します。
- ④ 施設内でのWeb会議などの利用増を鑑み文化会館内の光回線設備の強化を検討して参ります。
- ⑤ ワンストップサービスの充実を図り、きめ細やかなサービスの提供に努めます。
- ⑥ 文化会館・生涯学習センターで運用しているクラウド型施設予約システムを公民館でも運用できるよう調査、検討して参ります。
- ⑦ 各公民館のクラブ活動の活性化を図るべく、クラブ登録の条件を泉佐野市と協議のうえ緩和し、地域住民による自主的な生涯活動をサポートして参ります。

2. 施設の維持管理業務

- ① 開館時から30年を迎えようとする文化センターの経年劣化による設備機器の改修・更新に備えて、第3次建築設備更新計画案を泉佐野市に提案、協働し、安全で安心できる施設の維持管理に努めます。
- ② 各施設の消防計画や感染症拡大時などの危機管理マニュアルを現状に合致した内容に改定し、不測の事態・事故に備えます。
- ③ 昨今の化石燃料費の高騰も鑑み、公募時に提案しました第3次環境保護方針・計画に基づいた光熱水の効率的な運用ならびに廃棄物の抑制をおこない、引き続き環境にやさしい施設づくりに取り組みます。
- ④ 建物、設備機器の法令点検やメンテナンス業務を計画的に実施し、施設を最良の状態に保てるよう努めます。
- ⑤ 軽微な修繕や点検業務については、職員及び従業員で実施し、維持管理経費の軽減に努めます。
- ⑥ 佐野・長南公民館は、文化センターと同様に建物や設備機器の老朽化が大きな問題となっています。よって建築設備更新計画案を泉佐野市に提案し、利用者の安全性を最優先に考えた、安心して利用できる公民館運営を目指します。
- ⑦ 令和元年度から管理運営が開始しました日根野公民館については、他施設の管理を長期にて手掛けてきた実績を活かし、今後の中期的な建物及び設備機器の修繕更新計画を立案して参ります。

3. 文化振興事業

現在コロナ禍における社会情勢が平常化にシフトしつつあるなか、文化芸術などの鑑賞機会の欲求は、加速度的に大きくなってきております。

この状況を好機と捉え、「一般鑑賞型事業」「賑わいづくり事業」を軸に公演を実施し、まずはホールに賑わいを取り戻すことに注力いたします。

また、大阪・関西万博の開催に向け、地域の文化芸術の発信、シビックプライドの熟成の機会や環境づくりに努めて参ります。

各種団体、企業の補助金、助成金事業に積極的に申請し、低予算で質の高い事業の実現を目指して参ります。

さらには、今日まで培ってきた経験と実績に加え、泉佐野市、泉佐野市文化協会、泉の森コンクール委員会、泉佐野市音楽家クラブ、泉佐野おや子劇場など地域団体との連携を最大限に活かした文化振興事業を展開します。

公民館事業については、先に述べた関係諸団体やクラブ活動者と連携し、様々なジャンルでの講座や公演を企画・実施して参ります。

① 文化振興事業編成

概ね、次の事業編成を計画しています。

- 市民参加型事業
- 音楽家・芸術家等の発掘・育成・普及事業
- オーケストラ・室内楽事業
- 一般鑑賞型事業
- 地域文化の発展を目指した事業
- 賑わいづくり事業

② 広報・宣伝

年3回発行の情報紙「エブノ泉の森ニュース」を市内ならびに近隣世帯への折り込みとWeb広告にて周知しつつ、近隣の商業施設や府内外の劇場等にチラシやポスターの掲示、配架を行い、ホールの様々な情報提供に努めます。

また、時代に沿った活動として「X(旧Twitter)」や「Facebook」「LINE」「Instagram」などのSNSによる情報発信を拡張して参ります。

ホール公式ホームページはもとより、地域のケーブルテレビやミニコミ誌と連携し、公演情報の案内にとどまらず、施設の魅力や特色をアピールして参ります。

③ 情報収集

利用者の意見を把握するために公演実施の際、来場者アンケートの配布を行い、情報収集に努めます。

併せて、文化会館公式SNSでの「つぶやき」や「コメント」をすくい上げ、ダイレクトな感想や意見を活用して参ります。

また、様々な団体や協議会等の研修や講座に参加することにより、他館との交流を深め、他施設や近隣地域の文化情報等の収集に努めます。

4. ホール会員組織

旧組織（泉の森ホール友の会）の会員数の減少傾向に加え、世の中のデジタル化の急伸や生活様式の変革を鑑み、令和4年度から新たな組織を立ち上げ運営しております無料メール会員組織「i z u Meet S（いずみーつ）」においては、登録者数は2/25現在1,313名です。

昨年同月と比較しますと444名の増加となっており、新組織の立ち上げに伴い順調に推移しており、引き続き会員の拡大を図って参ります。併せて会員の増加に伴い、会員管理システムの導入を検討して参ります。

また、文化振興事業のサポーターとして協力、活動頂くボランティア組織「サポートスタッフ」の募集や育成にも注力し、エブノ泉の森ホールの文化振興において、今まで以上に市民と協働し、参画できる組織を構築して参ります。